

特集

地域福祉に取り組むためのよりどころとして

社会福祉法人 **あすなら苑**



8月27日 奈良のあすなら苑へ行って来ました。近鉄ファミリー公園前下車。緑の田畑が広がり、昔からの集落も。苑の隣には開放的でワクワクしそうなあすなら保育園がありました。



理事長 村城 正さんのお話 一たち上げ一

ならコープの20周年の記念の取り組みとして、福祉活動で地域へお返しすることを模索し、4年の歳月をかけて「あすなら苑」を開設。地域生協の担い手は女性、その女性の多くに重くのしかかる介護の負担。しかしその負担は当たり前だという人々への理解を求めるのが、大きな壁だった。地域住民、組合員へ幾度となく（100回！）説明に向き、少しずつ賛同が広まり、やがて5万人を超える市民の参加と3億7千万円の募金が寄せられた。今年で14年目、現在事業所は12か所と広がりを見せている。



熱く語られる村城理事長

一高齢者社会と介護保険制度一

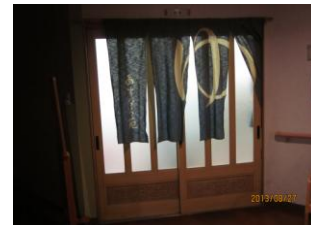
2000年、介護保険制度が導入される。措置制度から、利用者が自分に合った介護サービスを自由に選び、契約出来るように。よって様々なサービス事業が参入し、広まった。しかし2005年の見直しでは、「介護の社会化」から「家庭での介護」へと逆戻り。その背景には、予想以上の要介護者の増加、追いつかない介護サービス、膨れ上がる給付と財政の問題が浮き彫りになる。「制度」を維持するための見直しであった。2012年の改定は「医療から介護」へ。「施設から住宅」へ。2025年に団塊の世代が後期高齢者になることを見据えての、サービスの抑制にかかっている途中の段階。今後さらに利用の制限、負担の増加となるのは必至。

一地域で暮らし続けるために一

保育園、小学校、中学校などは普通に地域にあるが、当時の高齢者施設は？まるで隔離するように町中から離れた所にあるのが主流だった。しかし高齢

者もずっと住み続けてきた地域で暮らすのは当然の事ではないか？

地域に福祉の拠点があると情報も集まり事業や活動へつながる。さらにはネットワークも広まる事に。拠点となる施設は、その地域全体の高齢者に対して責任を持つという意識を持ってほしい。



家庭的な風呂
中はヒノキの浴槽

あすなら苑では、夏祭りなど地域へ開放したイベントを企画。毎年大勢の参加がある。また3階のホールも会議やイベントなどで年間1万人が利用するほどに。積極的に地域を巻き込むことも大切である。



十数年経た現在、「私たちの地域にも施設を作って欲しい」との要請が寄せられる。奈良県内の広い範囲に展開することで、ならコープの多くの組合員さんにお返しができるようになった。



見学を終えて・・・



村城理事長の福祉にかける熱意や、理想の介護事業とそれを実現させるための創意工夫を伺い、まさにその成果を目の当たりにした訪問でした。京都生協の福祉も、事業、組合員活動ともに、これらどこに向かうべきか、またそのために益々進む人口減少や高齢化、介護保険。制度の度重なる改定などの諸問題にどう対処していくかなどを盛り込んで、早急に福祉政策を改訂する必要があると強く感じました。村城理事長の「方針を作るときは夢語れ」の言葉に何事にも前向きになる勇気もらった気がします。（Hさん）





見学で一番印象に残ったのは、利用者一人一人が個性を尊重され、同じ場所

にしながら一括りに扱われていないことです。例えば椅子の高さ、個人の足の長さに合わせた3種類の椅子があり、足元が着くことで上体も安定します。車いす利用の方も苑ではその椅子に座ります。

あすなら苑では他にも驚くことがたくさんありました。まず、おむつをされていないこと。職員の方の小まめな声掛け・誘導が不可欠です。そしてアイランドキッチン。部屋の中央で作られた料理は、職員も一緒に食卓へ。調理中の作業や香りが利用者の食欲や興味を誘います。

苑の職員は、看護師もみな制服やマスク、手袋を身に着けていません。これは仕事で面倒を見ているのだという感じや、威圧感がなくていい雰囲気でした。

村城理事長の話では、ただただあの情熱に感服するばかりでした。本気で地域のことを考え、高齢者を介護するものしんどさを思いやり、利潤の追求よりその気持ちの強さが周りの人に伝わったから実現し、成功しているのだと思います。

何よりならコープの20周年に何か社会に向けて恩返しが出来ないかという精神が重要だったと思います。黒字だったとはいえ、4年もかけて反対を賛成に変えていくのは本当にすごいことです。京都生協がこれから本気で福祉に取り組むのなら何ができるのか…と少し暗い気持ちになります。

病院が優勢の福祉事業で、即黒字などあり得ないのだから、長い目で本当に必要とされる福祉を探っていけないといけません。利用者の顔が¥に見えているようではダメですね。

 (Kさん)



何かを作るとき一人の人の声、周囲の協力が必要であると痛感いたしました。

出来上がった苑は大変良い苑だと思います。これからは人と人とのつながり、協力性、声に出して物を言い合える仲間づくりをして、京都生協も日常生活圏内に良い施設ができればと思います。

(Tさん)



加速する高齢化社会に向けて、本当にしっかりと勉強をされて、10年後20年後のビジョンをたてられています。福祉のプロフェッショナルだと思いま

した。一人一人の尊厳を守る介護をしていけば結果的には黒字へとなるのでは？

これだけ大きな施設なのに、清潔感漂う空間でした。日中は極力上体を起こすべく、皆さん椅子に腰かけておられました。眠たい方はテーブルにクッションを置き、そこに頭を載せてウトウトと。骨盤を起こすことで排泄機能を鍛えることに。お風呂も朝から入りません（普通の家庭では夜ですよ）。で、夕方から入りたい人だけ。ヒノキの浴槽で家庭的に。決して流れ作業的にはしません。また夜間の在宅対応ですが、希望の方は24時間テレビ電話による態勢がありますが、これまで数回の対応

をただけ。何故なら昼間きちんと心と体のケアをしていけば、夜はぐっすり眠られるそうです。なるほど、当たり前の話。福祉の考え方は、特別なものでなく当たり前の普通の暮らしの中にあるの

(Kさん)



サロン室にて話を伺う委員さん達

だと思いました。

《実行委員会からのお誘い》

・今回の「あすなら苑」の見学学習会で「生協が関わった福祉の取り組み」のひとつを見ることができました。次回は、京都生協の福祉の施設を見学学習させていただけたらいいなと思っています。興味をお持ちのあなた！是非ご参加下さい。

・実行委員会は、月に1度集まって、京都生協の福祉・ボランティアの活動がより一層広がるように応援をしていこう、年度末に交流会を開こうという、学びながら、企画づくりをしています。たくさんの方に参加いただくと、たくさんの思いやアイデアがいただけるかなと期待をしています。



興味のある方、一緒に実行委員会のメンバーになりませんか！



このニュースへのお問い合わせやご連絡は

(075) 465-6882 安永まで

